



幸せな贈り物

新年の運勢 運命どおりならば

犬の運命が良い運命

時間管理より方向管理

〈成功する人々の7つの習慣〉という本を見れば「時間管理より重要なのは方向管理だ」ということが出ます。現代人は1分1秒も惜しみながら忙しく生きていっています。書店に行けば、時間管理についての多くの本があります。しかし、本当に重要なのは、どれくらい時間をよく管理しながら生きるかでなく、どの方向に走って行っているかです。方向が正しくなければ、がんばることがかえってうまく進まないことの場合があるためです。

いつのまにか2011年が目の前に迫ってきています。あたかも約束でもあるように新聞とインターネットには「新年の運勢」を占うという広告が間違いなく登場して、大学街でも路地ごとに占いが旗をひるがえしながら大変なにぎわいを見せています。近頃は、詐欺師の占いがとてもたくさんいます。重要な人生を詐欺師に任せて未来を決定する愚かな人々が、この世にあまりにもたくさんいるということに嘆かずにはいられません。近頃は、占いの学校に占い師速成科もあって、学生アルバイト、主婦アルバイトで占いを学んで教えており、突然に占い師がとてもたくさん出て来て、混乱するほどになりました。昔にはとても単純な方法でしたが、近頃は科学的にして、インターネットに、食堂に、ジャーナリズムに、文化に占いが広がって入っています。政治家たちまでも占い専門家を連れていて、事業する人々もほとんどそうだとされています。これは、その人々が自分の未来を自分の思いどおりにできないということを知っているということになり、何か



天の計画があるということを知っているということにもなります。もちろん、悪霊が人の中に入って、悪霊が分かって当てる場合もあるでしょう。しかし、悪霊は最も重要な部分をだまします。過去に、あるグループのジョンさんは、いつも占い師の助けを受けて最後の占いでだまされて倒産してしまい、韓国にIMFがくるようにさせたりもしました。悪霊は、人間のいのち、災いと祝福をコントロールすることはできません。結局、偶像崇拜と占いは、占い師本人も、家族も、占いをしに来る人も、結局はみな不幸にさせるだけです。悪霊は人間に祝福を与えることはなく、与える力もありません。ひょっとして悪霊が人間の運命を分かって当てられるとしても、運命自体から抜け出すことはできません。

2008年ペット産業博覧会(KOPET)では、愛玩用ホットカーペットと、愛玩専用遠赤外線乾燥器まで登場して、ニュージーランドでは、犬だけが聞くことができる周波数で録音されたレコード「A Very Silent Night」がレコードチャート1位に上がって、全世界でスタート準備をしていると言われています。近頃は、犬も服を着て、パーマにカラー道具も靴も

履いて、ヨーロッパに行けば犬の洋服店もあり、犬のガムも売っている時代です。ハリウッドスターとして呼ばれるパリス・ヒルトンの愛犬は、ブランドの服だけ千着と言われているので、本当に人間が運命どおりなら良い飼い主に会った犬の運命が幸運であると言えるでしょう。

2011年最高の運勢「運命脱出」

それなら、人間の運命と運勢はいったいつ、どこから始まったのでしょうか。神様のみことばである聖書は、人間がいつから運命と運勢に捕らわれるようになったのか、運命をもたらした張本人がなにかを明らかに知らせています。神様が世の中を創造されたとき、魚は水の中で、鳥は空中で、木は地の中に根をおろして生きるように創造されました。そして、人間は神様のかたちとして、神様とともにいる霊的な存在として創造されました。犬が人生に大変疲れたと家出してさまようことは絶対にありません。ただお腹だけ満たされたら満足します。ところが、人間はお腹が満たされただけでは幸せになれない霊的な存在です。最初の人間であるアダムとエバがサタンのうそにだまされて神様を離れてからのち、すべての人間は、サタンの手に捕まるようになりました。このときから、サタンがもたらす運命と運勢に捕われた人間は、自分の意志とは関係なく、呪いと災いに陥るようになって、親がいない子どものように不幸な生活を送るようになりました。聖書は、運命に捕われた人間の人生スケジュールをこのように語っています。**最初に**、自分も知らない間に見えない悪魔の子どもとして生きていくようになります。ですから、罪を犯したくなくても、犯さずにいることはできなくて、幸せになりたくても幸せなはずがないのです。**二番目**、人生を生きれば生きるほど、不安と恐れはずっと訪ねてきます。それで、偶像崇拜をしたり、お祓いをしたり、お守りに頼って、引っ越しするのも吉日であるかどうか縛られて、車にステッカーやお札をつけて通ったりもします。**三番目**、多くの努力と成功の中でも、心のむなしさはより一層激しくなって、結局、目に見えないように心の病気になって、激しい悪夢や金縛りにあい、不眠症、幻聴と幻覚に苦しめられ、極度の不安にうつ病やそううつ病になり、日常生活まで正しくでき

なくなる場合がますます多くなっています。**四番目**、自然に肉体の健康も、人間関係も崩れるようになって、あらゆる病気に苦しめられるようになります。

五番目、結局、人間は死ぬようになって、地獄という永遠な苦しみと刑罰の中に陥るしかありません。

六番目、私が持っていた良い点と悪い点など、霊的な問題と偶像崇拜の呪いが、驚くべきことに子どもにすべて伝えられて、不幸の相続が続くようになるという事実です。はたして、**生年月日による運命**から抜け出す道はないのでしょうか。

神様は、人間が解決できない問題を解決して下さるために「**キリスト**」を約束してくださいました。**キリスト**は、この世に来られ、十字架で死んで復活されることによって、神様を離れたすべての人間が**神様に会える道**を開いてくださいました(ヨハネの福音書 14:6)。キリストは十字架で私たちの罪の代わりに死なれることによって、私たちの**すべての罪を解決して、呪いと災いから解放**させてくださいました(マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2)。キリストは死から復活され、今でも人間を苦しめて地獄に引っ張っていく**サタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼして**くださいました(ヨハネの手紙第一 3:8)。キリストは、人間の**運命の問題を完全に解決**してくださいました。その「**キリスト**」(Christ)がまさに「**イエス**」(Jesus)です。今、**キリスト**である**イエス様**を信じて心に**受け入れる**ことによって、永遠な神様の子どもになって、すべての運命から解放してもらうことができます。

あなたは大切な人です。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」

(ヨハネの福音書 5:24)

世の中で最も美しい絵

素敵な作品を描きたいと思っている画家がいました。

ある日、彼は結婚を目前にして準備している新婦に世の中で最も美しいものは何かと尋ねました。すると新婦は照れながら答えました。

「愛ですね。愛は貧しさを豊かにして、少ないことを多く、涙も甘くさせます。愛なくては美しさもありません」画家は首を縦に振りました。

今度は、牧師に同じ質問を投げたのですが、牧師は「信仰ですね。神様を信じる切実な信仰こそ世の中で最も美しいです」と話しました。彼は牧師の話にも、うなずきました。しかし、それよりさらに美しい何かがあるようでした。

ちょうど通り過ぎるひとりの疲れた兵士に尋ねたところ、兵士は「なによりも平和が最も美しく、戦争が最も醜いですね」と答えました。

瞬間、画家は愛と信仰と平和を一ヶ所に集めれば素敵な作品になると思いました。その方法を考えながら家に戻った彼は、子どもたちの目の中に信仰を発見しました。また、妻の目では愛を見て、愛と信仰で立てられた家庭に平和があることを悟りました。しばらくして画家は世の中で最も素敵な作品を完成しました。それは他でもない「家庭」でした。

聖書は、人間が幸せな家庭を心から願う理由に対して、本来、人間は幸せな家庭で暮らしていたのに、その家庭をなくしたからだと言います。このような証拠を聖書に現れた最初の家庭の姿で見れば、その事実を発見できます。最初の家庭は、最高に素敵な男アダムと最も美しい女性エバの出会いで始まりました。彼らはあらゆる事物を理解して分析できる知恵もありました。彼らは足りないことがない完ぺきな環境で、すべての万物を治めながら生きて、万物は彼らに服従しました。それだけではなく、彼らを造られた創造主なる神様が彼らとともにおられ、二人は裸でしたが、少しも恥ずかしくなかったということでした。ところが、残念なことに、創世記3章を見れば、サタンの誘惑で神様のみことばに不順従になり、この家庭の幸せは壊れてしまって、その時から今まで人間はなくしたその幸せな家庭を心から願いしながら生きていっているのですが、これはまるで私たちがなにかをなくしたら、それを見つけようと思う願いと同じです。

本当に幸せな家庭を願っておられますか。家庭を与えられた神様に会ってください。神様を会うことを願いますか。神様に会えるまことの道であるイエス・キリストを心に救い主として受け入れてください。その瞬間から、あなたと家庭に幸せが始まるでしょう。

2011年があなたにこのように始まることを願います。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、
あなたもあなたの家族も救われます。」

(使徒 16:13)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。

私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

まことの人生

人生を生きていけば、節約しながらつましく暮らさないといけないのだが、時には自分を格好良くしてみたい気がする時がある。そのためか、最近になってファッション産業が急速に発達している。女の人たちはが好きなカバン中にブランドのグッチ(Gucci)のカバンがある。セールをしても十万円を越えるので、庶民はただでもらったとしても、持ち歩くのが難しい。なぜなら、ブランドのカバンを持って出て行こうとするなら、そこに合う服装、すなわち、服と靴とアクセサリをコーディネートすべきなのに、それもまた少くないからだ。もし、グッチのカバンを持っているとき、本物なのかそうでないのか専門家でなければ正しく分からない。しかし、これを分かるやさしくて正確な方法がある。市内に出て行って、突然、夕立にあってみれば分かる。もし、そのカバンがブランド物ならば、その人はそのカバンを胸に抱いて走る。しかし、偽物ならば、その人はカバンを頭に乘せて走る。

ためらうことができない時間を私たちは息ぜわしく駆けてきたが、すでに一年を整理する時になって、そこまで準備できていなくても、新年が迫ってくることを防止できない。私自身にだけは私が重要で私の現実には価値があることなのに、はたして私の人生は真の価値を味わって生きているのかを点検してみなければならぬ時間だ。新しいいのちが生まれれば、その赤ん坊をだれでも胸に抱いて行く。子どもの安らぎが、私たちの心臓の鼓動とぶつかり合って、心は分からない楽しみと静けさで進んで行く。しかし、これはその瞬間だけで、人生に与えられた生活はひたすらそのまま幸せではない条件がある。人生は避けられなく家系の流れがあるので、その影響の下に生きているためだ。

科学の発達とともに、人間の寿命を延ばす多様な研究と結果が洪水のように現れるが、人間はそれで絶対の幸せを味わうことはできない。人間にはたましいがある。肉体は私たちが調節して健康を維持できるが、たましいをコントロールできる条件は、ど

半分の人生

こにもなくて、ただ宗教の力を借りて少しの間、心の慰めを受ける程度で、その以上でも以下でもない。しかし、どうするのか。確かに肉体の中に存在するたましいは、X-RAYでも見つけることはできず、CTでもその他の映像技法でも発見できない。目に見えないからと無視できることでもない。そのたましいの価値を発見した人が霊と肉の真の価値を持ったので、まことの人生だと言うことができ、肉体だけあってたましいの価値を探せない人は半分の人生を生きていると見られる。人生に与えられたたましいは、肉体の中でその人がキリストを通して救いを発見する家としての事実で存在する。



イラスト_シン・チョンウン

家ごとにドアがあるように、ドアをあければキリストが入られる。キリストがその家にいっしょにいて食事をして、キリストが主人になられるとき、はじめてその人は救われた者になって、たましいの自由を味わうようになるが、このときに言葉で肉体の平安と現実の中での慰めを味わうようになる。私のたましいが価値があるならば、その胸の中に何を抱いているかによって永遠の時間が分かれる。古くなってごみ箱に捨てられるブランド品を抱いても価値があるのに、まして永遠なキリストを心に抱く楽しい人生には、ブランドの人生を越えた本物の人生の感謝を味わうようになるから、この喜びをともに発見する新年となるように願う。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ